

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101448		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム三和の邑		
所在地	熊本市西區城山大塘4丁目1番15号		
自己評価作成日	令和5年 8月 1日	評価結果市町村報告日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者との和」「地域との和」「職員の和」この3つの和を法人の理念として掲げています。田園風景の中にある施設で家庭的な環境を基盤にご利用者、職員が楽しく和気あいあいと、たまには喧嘩しながら穏やかに過ごしています。喜怒哀楽の絶えない雰囲気の中にはいつもご利用者がいます。今年度はコロナも5類となり、戸外への外出を、再開しました。面会の制限を緩め、ベランダで対面で行うなどしましたが状況により、タブレットを使用してビデオ電話での面会などに戻したりと状況に合わせて試行錯誤をしています。しかし運営推進会議を再開し町内の夏祭りを見学に行ったり、地域との交流も徐々に再開できています。このような状況の中、どのようにしたら楽しみのある生活を、送って頂けるか職員全員で考え支援させていただいています。今後も、地域に根付いた施設になれるよう努力していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度より法人の組織変更があり、「新しい三和の邑を作るため」の取組みや職員間での意見交換・振り返りを行い取組んでいる様子がありました。毎年事業計画も作成され、今年度は入居者・職員がよりよく過ごすための接遇スキルアップやノーリフティングケアの取組み等、理念でもある「利用者」「地域」「職員」に通じる重点目標を掲げ取組まれており、質の向上に向かい、事業所の良さを話し合う様子がありました。ホームでの日常は、入居者それぞれが思い思いに過ごしており穏やかな日常が保たれています。地域の中にある我が家と変わりなく、四季折々田畑の作付けや成長・収穫の様子を感じることができる自然豊かな雰囲気、穏やかな生活を過ごす入居者の姿がありました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年 9月 4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	sinn 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての基本理念「3つの和」(利用者との和)「地域との和」職員の和を掲げ、さらに事業所独自の基本方針と4つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域との連携」を見やすい所に掲示し、管理者並びに職員がサービスの基本方針として共有し、又、事業所会議の中でも確認し合い意識付けを行っている。	法人理念を基にした事業所基本方針と目標も掲げケアを行っている。事業所では年間を通してチーム目標として毎日のケアへの具体的な項目を掲げ取組んでいる。今年度は「笑顔」や「相手の立場に」等を盛り込んだ3項目のスローガンを掲げ、法人理念の「3つ」に繋がる入居者・職員・地域に通じることとして実施している。	今年は法人全体での組織変更があり、新しい事業所体制についての意見を出し合った様子が聞かれました。事業所方針・目標に加え、事業所独自のスローガンを掲げ取組む様子もありました。事業所の良さを引き出し質の向上に繋げるため、法人理念を基本とした事業所の取組みについて振返る機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所独自の取り組みとしては、地域商店街での買い物、施設周りの散歩等を通して地域の方との交流に努めている。例年、行っていた町内運動会への参加、レストランでの食事、ボランティアの受け入れなどは、コロナの影響で実施できていないが5月から5類になったこともあり、6月には母体の三和荘の行事ではあるが芝生で(施設のすぐ目の前)地域の方を招待してのグランドゴルフ大会を再開した。又、普段も芝生に近隣の方がゴルフをやりに来られ職員と会話をしたり、親子でキャッチボールをされる姿や子供数人で遊んでいる姿等が見られたり気軽に来訪出来る施設となっている。7月と8月に地域の神社の茅の輪くぐりや町内の夏祭りに参加している。	従来より事業所敷地では地域住民がラジオ体操をする姿やグランドゴルフを楽しむ様子がある。今年度は日常的な地域住民の姿もまた見られるようになり、コロナ禍以前の様子も戻りつつある。地域の夏祭りも再開され、数名ではあるが入居者も地域の方々と触れ合う時間を持った。今年の運営推進会議では委員の方々に避難訓練にも参加頂き意見を頂くことで地域との情報共有も行った。	感染症の流行も未だ心配される中、状況を見ながら地域へ出向く機会作りに取組む様子が聞かれました。今後は行事等だけでなく、入居者と地域の日常的な関わりが再開されることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の機会をとらえて認知症についての勉強会や身体拘束廃止の勉強会などを行っている(コロナ蔓延防止のため資料配布)。運営推進委員は、地域の自治会長に必ず入って頂けるようになり、地域との連携が取りやすくなった。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、5月の第1回運営推進会議までは、資料配布を継続し前年度の事業報告や本年度の事業計画を報告している。7月の第2回目から実際に集まって頂き、会議を開催した。防災訓練を行い委員さんに避難の現状を知って頂き、避難の協力について自治会へ意見を聞くなどの投げかけをして頂いた。今年度も外部評価の報告や介護サービス情報の公表などの報告を行う予定。	近年は感染症流行もあり書面での報告も多かったが、開催時期には対面での実施が可能であるか検討し進めてきた。今年5月の開催では避難訓練も行き、運営推進会議委員にも参加頂いた。委員の方々には、風水害被害にもつながる地域の状況や情報を基に意見を得、話し合い反省に繋げることもできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響で市主催の集団指導や介護相談専門員の受け入れ、施設意見交換会などの実施が出来ていないが、熊本市のホームページなどで担当者より動画配信などで現状や指導を受けている。不明な点は、その都度、市の担当者へ連絡し指導を受けている。	従来より市への報告・連絡・相談や介護相談専門員の受け入れ等にて連携を行ってきた。コロナ禍になり動画を利用した集団指導も導入され、内容を深める等、新たな面も見える。現状では電話やメール等による担当者への報告・連絡・相談が主である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するために事業所会議にて勉強会や話し合いを通して学習する様になっている。又、接遇に関する3つのスローガンを掲げ毎日、業務日誌に記載することで各職員の意識の共有と向上を図るなど、日頃から拘束をしないケアに努めている。	身体拘束の担当職員を決め、事業所会議の中で年4回の勉強会を行っている。市よりの動画配信の中で権利擁護等に関する部分は全職員が視聴した。今年度は特に事業計画での重点目標としてノーリフティングケアや接遇のスキルアップを掲げ、取り組んでいるところである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	法人全体でも虐待について、勉強会を行っている現場でも「不適切ケアが虐待の芽」という認識の上、日々のケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見制度を利用されており今後も、研修会に参加し学習会などに取り入れていきたい。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所日に必ず、家族へ契約内容などの説明を行い、同意を得たうえで署名、捺印をもらっている。コロナ禍の影響で県外にあられる家族には、書類を郵送し、署名、捺印をもらい、返送していただいている。又、家族の疑問や希望には、納得を得るように心掛けその度の説明も行っている。必要があれば変更もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者情報を職員が共有できるように申し送り長とケース記録に記載している。家族の意見は、窓越しの面会などでコミュニケーションを取り把握する様に努めていて直接利用者の日々の状況を報告することが出来ている。遠方の家族には、電話で連絡し意見などを聞いている。簡単な連絡はオンラインを活用し、写真を送るなど、逆に連絡の機会が増えている。それに加え長年続けている月1回の広報誌の発行や、担当職員が、利用者の様子を手紙に記し報告している。又、玄関に意見箱も設置し法人内には、第三者苦情受付窓口も設置し対応している。	日々の申し送りや記録は申し送り等で共有している。コロナ禍で以前のような気軽な面談が難しい状況が続いたが、現在は流行の状況や家庭環境を検討しながらベランダ等も利用して面会を受け入れている。毎月広報紙と家族宛の近況報告を発行し、職員からの電話連絡等で家族との意見を表しやすい関係作りに取り組んでいる。意見箱の設置や外部への相談窓口も掲げ、外部へも意見を表すことができる体制を示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに事業計画書を作成するにあたり原本を作成し職員の意見を、聞いて完成した。業務改善をするにあたりアンケートで意見を収集し事業所会議にて決定している。毎月、振り返りをし上手く結果が出ているかの検討を行い改善すべき点は、改善に繋げ、事業所会議に参加できない職員には、事前に意見を聞き全員の意見が出せるようにしている。	毎月事業所会議を行い職員間で意見を出し合う機会としている。法人の事業計画には職員の希望を叶える、プライベートの充実も大切であることが記されており、職員それぞれに目標管理シートを作成して年2回面談を行う等、働きやすい職場作りを目指す姿が見られる。会議や面談だけでなく、日頃の職務中にも管理者へ意見を述べることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、目標管理シートを作成し、接遇の向上、サービス・ケアの質の向上、個人目標を設定し、それが達成できるように互いにサポートしている。又、日頃から現場の勤務実態、努力、実績、悩みなどを観察し、必要に応じて直接面接し把握できるように努めている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や職員研修に参加したり、事故研磨に努めたりしている。又、OJTの実施も行っている。今後、コロナの状態を見ながら、外部研修などの参加を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、同法人の3グループホームで合同会議や同じ地区の3グループホームで合同会議を行い訪問をしていたが、コロナの影響で中止している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面接を行い、アセスメントを行いながら情報収集に努め、安心して入所していただけるような環境づくりを行っている。家族や担当のケアマネージャー、ソーシャルワーカーとの連携を取り、利用者の生活スタイルを継続出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や、入所前に自宅などを訪問しご家族の要望や思い、サービスについての意見など、傾聴する機会を作っている。又、事業所の介護方針、サービス内容をよく説明し十分に理解していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の見学を勧めていたが、コロナの影響もあり、電話で詳しく施設の様子を伝えている。又、必要に応じて他のサービス事業所や市の窓口、包括支援センター、他のグループホーム等の情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を確認しその思いを尊重している。又、本人の能力を発揮できるような環境作りを行い、出来る事は、極力本人に行っていたり出来る様になっている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回家族会を行っていたが、コロナの影響で今年度も出来ていない。12月には行えるようにしたいがコロナの状況次第である。その代わりに窓越しの面会を行っていて利用者と家族が顔を見ながら話ができる環境を設定している。通院同行は家族になるべく行ってもらうようにしている。誕生会に家族は、参加できないが、家族から要望があればその時の様子を動画で撮影し家族に送るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でペランダでの面会になったが利用者の知人の面会は、あっている。家族の協力を得て友人、知人が面会しやすいように支援している。コロナ以前に行っていた利用者の地元巡りのドライブなどを再開していきたい。	従来より家族や知人の面会もよく見られる。地域の馴染みの季節行事や季節飾り見学等、少しずつではあるがコロナ禍以前の生活が戻りつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性などに応じてテーブルの席を考慮し、利用者の尾心地の良い場所の提供に努めている。又、席を固定せずに利用者が席を選んで座られる場面もよく見られるようになった。又、他利用者の下膳を自らかつて出られる姿やお互いの部屋に來訪されたりして話し込んでいる姿も見かけることが多くなった。又、今まで関わりのないご利用者同士で良い関係づくりが出来るようにレクなどを行い、配慮しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の他事業所に入所された利用者は、面会に行ったり、こちらを訪れたりとの交流は、あっている。ご家族も、顔を覗かせられたりされることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接聞き、確認しづらい時は言葉や行動の中からくみ取り、ケアに活かすように努力している。本人から確認が困難な場合は、家族から話を伺い、又、職員全員で検討し本人の想いに近づけるように努めている。	職員は入居者との日々の会話を大切にしており、できるだけ「話す」ことに取り組んでいる。家族とは状況報告等の電話連絡や面会等時に確認している。現在は思いを表すことができる入居者も数名おられ、多様な感情も大切にしたい思いの汲み取りを行っている。	

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を本人、家族、ケアマネジャーに確認し、馴染んだ暮らし方やこれまでの経過の把握に努め、暮らしの継続性の実現に努めている。又、入所後も機会をとらえ本人や家族に確認するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活を職員全員で細かく観察し記録に残し、気づいた点を情報交換し本人の現在の姿を把握するようにしている。又、有する力が発揮できるように随時、アセスメントを行い生活リハビリに繋げ張りのある生活の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、1年の期間としモニタリングを3か月ごとに行いモニタリングは、利用者の担当職員が作成し他職員の意見を取り入れケアマネジャーが完成させている。半年に1回本人、家族を交えて担当者会議を行い、介護計画書の評価と見直しを行いそれぞれの意見を介護計画に反映させている。又、主治医と看護師と連携を取り、事業所会議でも必要時にアセスメントを行い意見を取り入れるようにしている。	年間を通した介護計画であるが、半年毎に家族も交えた担当者会議を行い、主治医や関係機関、職員の意見も反映して見直しを行っている。毎月の職員会議の際、入居者の気になる点等を職員間で話し共有している。日々の気付きや状況は申し送りで共有し、必要に応じて随時ケアカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録、業務日誌、バイタル記入表、申し送り帳にその日の状態や気づき、職員の対応も記入し、全員が目を通して情報を共有している。口頭でも重要なことは、職員同志で周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理業務者、調理師、栄養士、職員指導職、計画作成担当者等それぞれの職種でニーズに応え機能を果たすようにしている。コロナの影響で面会が出来ないため利用者、家族から要望もあり、リモートでの面会を実施している。誕生会などにも参加できていないため様子を動画に撮り、送ったりもしている。緊急時や家族の事情による病院受診等、臨機応変に個別ケアを行っている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターの「マップ」によって地域資源を把握し、迅速に活用出来る様になっている。又、運営推進会議を通して、地域の人たちに協力をお願いして実情を知ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、状況に合わせて適切な医療を受けられるように体制を整えている。又、近くに協力医があり、本人、家族、主治医と相談しながら受診を行っている。受診は、家族にお願いしているが状況によっては、職員が同行している。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診支援を行っている。協力医をかかりつけ医とされる場合は毎月1回往診を受けている。月2回訪問看護による健康チェックもあり、24時間の連携体制がある。専門医等の通院はできるだけ家族へ協力をお願いしており、状況説明が必要な際には職員も同行する。家族の状況等によっては職員の同行も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護による健康チェック時に情報や気づきを報告しアドバイスを受けている。又、爪切りなどの衛生面のお手伝いもして頂いている。又、特変時や緊急時も24時間体制にて報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、家族や主治医と相談し、本人の状態を把握しながら出来るだけ早期退院出来るよう入院先の連携室と情報交換を行い必要な時は家族を交えカンファレンスを行っている。協力機関に入院された場合は、協力機関の訪問看護とも連携を撮ったり関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化指針を本人、家族に説明し同意書にて確認している。終末期の取り組みは行っていない。長期にわたる継続的な医療が必要になった場合は、他の介護保険施設や医療機関を紹介する等の処置を講じている。	入居時に入居者と家族へ事業所のと取り組み体制を説明し同意を得ている。重度化した際には、入居者にとってより良い生活ができるよう医療機関や特養への住み替えも支援しており、そのような例も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、法人内研修において救急法の講習と実技訓練を受けている。今年度も法人内の研修にて実施している。又、事業所内でも防災訓練と同時に緊急時対応の訓練も行っている。法人本部備え付けのAEDの使用も可能である。		



グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内に特別養護老人ホームがあり、避難誘導活動が出来る様に協力を得ている。又、消防訓練を年に2回(火災訓練、風水害での避難訓練)実施し、水、食料品の備蓄もやっている。そのうちの1回を運営推進会議で行い、そこで感じたことを、地域に呼びかけていただいた。地域と合同で防災訓練を行ったこともあり、地域との協力体制が取りやすくなっている。	年2回の消防避難訓練を行っており、入居者も一緒に参加している。今年度は運営推進会議を利用し、地域の方々にも確認して頂き、意見を得た。火災・自然災害等を想定した訓練を行っており、隣接する法人事業所への避難訓練も実際に行った。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に守秘義務の説明を受けその後も個人情報や記録等、プライバシーに関する物は、厳重に対応するように指導を受けている。又家族に対しては、個人情報の取り扱いに関して契約時に説明を行い同意を得ている。法人内や事業所において言葉使いや接し方の研修を行っている。又、日々のケアにおいても職員同士で確認し合う体制を取っている。	現在の入居者は思いを表すことができる入居者も数名おられ、特に配慮しているところである。法人全体行われる接遇研修にも職員は参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動の前に必ず声掛けを行い出来る限り本人の自己決定を尊重し、自分の力で行えるように支援している。又、選択肢を提供し選んでいただく等の工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一つ一つの行動の前に必ず声掛けを行い出来る限り本人の自己決定を尊重し、自分の力で行えるように支援している。又、選択肢を提供し選んでいただく等の工夫を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを配慮して相談しながら行っている。美容では、定期的に訪問美容を利用し、本人の希望に添うようにしている。又、気持ちがあまく伝えられないご利用者には、家族と相談しながら支援している。ご利用者の希望に応じて一緒に服の買い物支援を行っている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状況に合わせて、調理方法や盛り付け皿を使い分けている。食べたいものの希望を日頃から尋ねるようにしている。準備や、片づけ等、声掛けを行い共に行っている。施設の前に菜園があり一緒に収穫したり食卓に提供するようにしている。メニューは旬の物を取り入れるようにしている。又、調理師が食事作りに入っている。年3回は外食を行い、ご利用者の好きな物を食べて楽しんでもらっている。(現在は外食が出来ないため、利用者の希望をとり、寿司などをお持ち帰りし施設で食べている。)	調理師資格を持つ職員による献立により、三食事業所での手作りで提供している。入居者の嚙下状況や日々の体調にも対応できる環境である。コロナ禍で外食の機会作りも難しい状況が続いたため、寿司や弁当、ファストフード等のテイクアウトを利用し、入居者がメニューを見て選ぶ楽しむ機会も作っている。飲み込みが難しい入居者にはペーストでの提供も行っており、提供の際には料理の説明をしながら、食事が楽しい時間となるよう取り組んでいる。玄関前には菜園があり、野菜の成長は入居者の喜ぶ姿もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと毎日、毎食分の食事量と水分量のチェックを行い、栄養不足や水分不足にならない様に支援している。摂取状況にあわせ食事形態にも工夫をこらしている。又、月に1回、体重測定を行い、献立表のチェックも行いバランスの良い献立を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内状態にあわせ訪問歯科や同法人内の歯科衛生士より指導を受け、起床後と毎食後の口腔ケアを行っている。又、そのために必要な備品も個人で揃えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや健康状態を確認するためチェック表を作成している。時間をみて声掛け、誘導を行いおむつ外しに心掛けている。又、その人に合った尿取りパットを選ぶようにしている。手伝うことは最小限にして、自立に向けた支援を行っている。	できるだけトイレでの排泄となるよう、パット等を利用しながらチェック表をもとに声掛けや仕草等により誘導している。自立が難しい方がトイレ利用を希望される際のため、立位を補助する介助用品も導入されており、職員の負担軽減にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便のチェックを行い排便の状態を把握している。それにより必要な方は水分摂取をこころがけ食物繊維を摂取していただき、又、1日2回の体操を行い、なるべく自然排便が行えるように支援している。又、野菜中心でバランスの良い食事の提供をしている。		

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後2時から4時を予定し利用者の状態に合わせて週2回から3回の割合で支援している。その中でも入りたくない日は無理強いせず日にちをずらす等している。必ずマンツーマンで介助を行い、入浴をゆっくり楽しめるように心掛けている。リフト浴を導入しており出来るだけ湯船に浸かれるよう支援している。季節に合わせてしょうぶ湯やゆず湯も行っている。	3日に一回週2～3回、午後の時間帯を基本とし、マンツーマンでの介助を行う。入居者の立ち上がりが難しくなった際にもできるだけ湯舟の利用ができるようリフト浴も導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、夜間安眠出来るように1日のリズムを整えている。自由に居室にて休むことの出来る利用者は干渉せずに見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬されている薬の薬剤情報の冊子を作成し職員で情報の共有を行い薬に対する知識を高めている。症状に変化があった場合は、主治医に連絡し確認、報告を行っている。処方内容が変わった時は、記録に残し必ず申し送りを行っている。服薬介助においては、薬箱に様々な工夫を行い、3重のチェックを行い誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな番組を鑑賞したりホール内で好きなBGMが聞けるように支援している。又、カラオケを行ったり、買いたい物の希望を聞いて職員が買い物を行っている。又、昔行っていた遊び(トランプ、花札、将棋)を行う。季節のならわしや行事も取り入れ、利用者が主体となって楽しめるように支援している。又、お手伝い等、自然に行えるように場面作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や芝生での日光浴は行えていてコロナで外出は自粛していたが、鯉のぼり見学や紫陽花ドライブなど戸外を楽しめる行事は、再開している。施設内で楽しんでいただける事も、利用者の希望を聞きながら、取り組みを実施している。	コロナ禍により以前のように計画による外出や気軽な外出は難しい状況が続いていたが、少しずつ再開を始めたところである。ベランダや前庭の水やりを習慣とする入居者の姿もある。敷地の木花が咲く季節には、急遽外で食事をする等、その日の状況で外気を感じる取り組みも行っている。	季節の花見等計画による外出も再開され、入居者皆さんで楽しむ様子が窺えました。今後は、入居者それぞれの希望を汲取った個別支援への取り組みに期待します。

グループホーム 三和の邑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人での管理は難しいが家族の要望により財布を本人が持っておられる方がいる。その他の利用者は、家族の依頼により職員側で預り金として管理している。本人の希望する品物を購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方がおられ自由にかけたりされている方は、お一人おられる。お一人の方は、家族からかかってきた時、取次をしている。家族や知人から施設の電話があった時やかけたい時は取り次いでいる。手紙が届いた時は渡したり代読したり返事を書く手伝いをしたりしている。又、届いた手紙が紛失しないように一緒に保管する等の手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体は施設的であるが、毎月季節感を出した装飾品を玄関や壁面に飾り工夫を凝らしている。利用者の写真や絵等の作品を飾り暖かな雰囲気作りに努めている。ホールは吹き抜けで解放感があり大きなベランダからは、景色が眺められる。台所も広く開放的である。トイレも車椅子が入る広さが2か所ありその他に1か所あり明るく衛生的である。	木造の落ち着いたホールは吹き抜けで明るく、室温にも配慮し入居者が穏やかに過ごすことができるよう配慮している。季節ごとには入居者も参加して作った壁飾りが掲示されている。ホールにはベランダがつづき、鉢植えに水やりをする入居者の姿も見られる等、日常生活を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き自由にくつろげる空間があり安心して過ごせるように工夫をしている。テーブル等の配置も考え利用者同士が交流を図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には各自、今まで使用していた家具や生活用品を持ってきていただき、家族の写真や飾り本人が居心地よく暮らせるように工夫している。	洗面台とベッド・エアコンが備えている居室には、家族写真やアルバム、位牌等入居者の生活用品や家族を感じることでできる品が持ち込まれている。テレビを見たり、家族と携帯電話で話したりと、入居者が一人でも心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に表札を置いたり、ドアの色を変えたりして利用者が分かる様にしている。トイレの前にトイレと大きく表示して利用者が自立して利用できるようにしている。バリアフリーであり足元の危険物はなくし導線の確保を行っている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム三和の邑

作成日 令和5年 10月27日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	全体での外出は再開出来たが、個人での外出が出来ていない	入居者それぞれの希望をくみ取った個別支援への取り組みをする	本人の希望や家族から協力を得て、計画を立てて実行する。感染対策を行い外出支援を取り入れていく	令和6年3月まで
2	1	法人全体の組織変更があり、事業所の良さがまだ引き出せていない	事業所の取り組みについて振り返る機会を作る	事業所会議の前に各自が問題点と改善点を書き出し、会議までにまとめて資料配布を行うことにより、話し合いを効率的に行い振り返りの場とする。その内容を職員全員で共有し実践を図る	令和5年12月まで
3	2	行事参加は再開しつつあるが、入居者と地域の日常に関わることが出来なくなっている	入居者と地域の日常的な関わりの再開をする	以前の様に地域の慰問を再開し、その後三和の邑に遊びに来やすい雰囲気を作る	コロナ渦が落ち着いてから
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

